

1. 評価結果概要表

平成 20 年 5 月 9 日

【評価実施概要】

事業所番号	0173800350		
法人名	有限会社静内ケアセンター		
事業所名	グループホーム「栗ちゃんの家」		
所在地	日高郡新日高町静内ときわ町3丁目12-25 (電話) 0146-45-0023		
評価機関名	社団法人 北海道シルバーサービス振興会		
所在地	〒060-0002 北海道札幌市中央区北2条西7丁目かでの2・7 4階		
訪問調査日	平成20年3月10日	評価確定日	平成20年5月9日

【情報提供票より】(20年2月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	12年	4月	1日
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人	
職員数	18人	常勤8人,	非常勤	13人, 常勤換算7.6人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	1階建ての	～ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	31,000円		
その他の経費(月額)	63,000～65,100円 冬期(10月～4月)光熱費7,000円加算		
敷金	有(円)	無	
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	400円	昼食 400円
	夕食	500円	おやつ 円
	または1日当たり	1,300円	

(4) 利用者の概要(2月21日現在)

利用者人数	18名	男性	8名	女性	10名
要介護1	1名	要介護2	3名		
要介護3	6名	要介護4	6名		
要介護5	2名	要支援2	名		
年齢	平均 84歳	最低	70歳	最高	99歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	山田クリニック、静和会石井病院、静仁会静内病院、山口歯科医院
---------	--------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は、広い敷地に多機能の「福祉村」構想を実現した母体法人の一角にあり、1ユニットの家二つが廊下でつながっている。運営者は、「普通に生活することがリハビリである」との考えで支援することを主義としている。事業所では、開設時より幾度かのターミナルケアを経験している。職員達の話合いで、重度化したら皆で見守れる様にとベットを居間に移動している。利用者が淋しくないように、手を握ったり、声かけをして、最後まで家族のように皆から大切にされる姿を、利用者全体にも感じてもらっている。事業所での看取りは、職員、家族、医療関係との連携のもとで実現したものである。家族からも大変喜ばれ感謝された経緯がある。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 相談苦情窓口は、事業所の管理者のみであるので、第三者機関の相談苦情窓口の記載が求められる。その他の課題項目については、改善されている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価・外部評価を実施することの意義を良く理解し、職員全体で自己評価し、カンファレンスやミーティングで話し合っている。評価の内容は、具体的なサービスや質の向上に反映させている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は3回実施されている。敷地内にある母体事業も含め地域密着型サービスの更なる向上のため、推進会議の質を高め、軌道にのせるよう運営者、管理者は熱意をもって取り組んでいる。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 母体法人で、「ケア便り」を発行しており、事業所のことも盛り込んでいる。職員は、家族の来訪時には、積極的に声かけをし、意見、苦情、不安などを気軽に話せるように配慮している。また、家族への連絡も密にしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会に加入し、防災訓練などは、回覧板を回し地域の方々の見学も多い。事業所行事のクリスマス会、花見、盆踊り、バーベキューなどにも、地域の方に参加を呼びかけている。公園で地域の方と話をしたり、野菜や縫いぐるみを頂いたりすることもある。中、高校生の訪問や押し花づくり、大正琴などのボランティアも受け入れている。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所として独自の理念を簡潔に解りやすくまとめ、居間の壁に掲示している。	○	理念の中に、地域密着型サービスであることを、例えば地域の人々と共になどの言葉を補って明記するとよいと思われる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営者、管理者、職員は共に理念を共有し、毎日出勤時に理念を復唱して日々のケア実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	職員は散歩や買物時、地域の人々と積極的に挨拶を交わすようにしている。自治会にも加入し、利用者の力量に応じて行事に参加したり、地域の方々には事業所行事への参加をお誘いすることもある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価はユニットごとに職員全員で行い、カンファレンスで話し合っ、管理者が纏めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議はすでに3回実施され、軌道に乗りつつある。事業所の状況報告やサービスの質の向上に活かす為の情報交換が行われ、記録もまとめている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所の運営や事故報告などで町の担当者との連携は取れている。今後は更に交流を深め、情報の共有を図り、町とはパートナーとしての認識で質の向上に取り組んでいく。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	請求書の送付時、お便りを添えたり、電話をしたりして事業所での利用者の様子を報告している。家族の来訪時には、金銭管理の報告にサインを頂いている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は、家族の不満や苦情などを日頃から気軽に話すことができるように配慮し、家族との交流や話し合いを大切にしている。内容で改善点があれば職員間で話し合い記録もとっている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	二つのユニットの交流が日常的に行われ、利用者、職員の馴染みの関係が構築されている。ユニット間は通路で結ばれていて車椅子で容易に行き来出来るようになっている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、定期的に職員を研修会に参加させている。研修会は報告書に纏め、ミーティングで報告している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管内のグループホーム連絡協議会に参加し、交流や研修、勉強会に参加している。また事業所の行事に同業者を招待することもある。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者が入居する前に、家族、本人に事業所を見学してもらい、何度も話し合いを重ね、ショートステイ、デイサービス等で馴染みの関係を構築し、入居となるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者の希望を大切にして、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にしている。季節のよい時は、外で食事をしたり、他のユニットや独居ハウス、デイサービスの人と交流したりと自由な過ごし方の選択が出来るよう取組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、利用者に寄り添う時間を大切にし、生活歴の把握や希望を知り、利用者にとって得意な分野を表出できるよう取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員は、利用者の担当を決め、利用者を深く観察したり、馴染みの関係を持ち、より良く暮らすための課題とケアのあり方を話し合う仕組みを作っている。定期的なカンファレンスで、利用者、家族の意見を反映した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1度見直しを行っているが、状況の変化によってはその都度見直しのためのカンファレンスを行い、現状に即した介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者、家族の状況に応じて柔軟な支援を行うよう取り組んでいる。事業所のある敷地内で「福祉村構想」を実現し、利用者は地域の人も交流ができている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回往診を受けており、緊急時の相談や対応はいつでも連絡できる体制となっている。利用者の希望によっては、かかりつけ医への支援もしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	職員会議で話し合い、家族や利用者の意向を確かめながら、主治医の協力を得て対応している。ターミナルケアを経験している。体調の悪い時や終末期には、家族・利用者・職員の話し合いのもと、居間にベットを移動して、皆で声かけや見守りを行っている。	○	利用者の、重度化や終末期に向けた指針、マニュアルを文書化しておかれることを希望する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、常に利用者一人ひとりの誇りを大切にし、優しく静かに声かけすることを主義にして、プライバシーの確保を心がけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースに合わせ、その日をどう過ごしたいかを把握して、柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みの食事が出来る催しを毎月計画し組み込んでいる。各ユニット毎に調理員が配置されている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望やタイミングにあわせ、週2～3回の入浴を支援しているが毎日入浴する利用者もいる。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	読み聞かせ、体操、歌など利用者の楽しみや気晴らしになることを工夫し、変化に富んだ生活を支援するよう心がけている。二つのユニットで交流し職員、利用者同士の馴染み関係も出来ている。合同の行事も多い。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ドライブ、散歩など日常的に行っている。敷地内でディサービスの人と交流、ユニット間の交流、独居の方との交流など変化に富んだ生活を支援している。合同行事も多く、温泉に出かけることもある。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけないことの大切さを認識し、安全性を確保しながら、外に出たがる利用者の対応を工夫している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎年災害訓練を行っている。具体的な避難訓練のマニュアルも作成している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食事量、水分量はチェックをしている。利用者の中にはミキサー食の方もいる。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間は広々として明るく、畳の小上がりがあり、季節感のある装飾や手芸品が飾られている。隣の事業所と廊下でつながっており、利用者は車椅子で自由に行き来できている。廊下にはベンチも設置されていて、利用者が思い思いの過ごし方が出来るよう配慮されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の居室には、使い慣れた家具が持ち込まれ、家族の写真を飾ったり、ぬいぐるみを置いたりしてその人らしい居室となっている。		

※  は、重点項目。